

第8回 番組審議会議事録概要

1. ◆開催日時

平成29年10月2日(月) 午前12時より

2. 開催場所

東京都港区台場2-4-8 フジテレビ本社 会議室

3. 出席者

委員長 : 吉岡忍

委員 : 藤原庸介、竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、升本喜郎
(杉浦委員、林委員は所用により欠席)

株式会社サテライト・サービス

清水賢治、岡崎洋三、手塚久、峰岸淳、窪田正利、五百城重典

株式会社フジテレビジョン

平野雄大、福本洋、門澤清太、鹿内植、松永正隆

株式会社ジュピターテレコム

平本善一、森井 健策

4. 議題

- 1) 「TOKYO SESSION -ROCKIN' GAMBLER- 第1夜」
フジテレビNEXT ライブ・プレミアムで放送
- 2) 「カスタム野郎 Cチーム」
フジテレビONE スポーツ・バラエティで放送
- 3) 報告事項 「衛星基幹放送の業務の認定申請について」
「番組基準の追加訂正の件」

審議に先立って清水社長から

- ・東経110度CS放送業務の認定申請が始まっている。課題であった、すべてのSDチャンネルのHD化は残念ながら今回は出来ないだろうと思われる。とはいえ、現在使っているサテライト・サービスの帯域を一部返上し12スロットHD化に協力し、他のチャンネルも、サテライト・サービスで引き受けようと思う。今決まっているところでいうと、スペースシャワーTVという音楽チャンネル、これがスカパーエンタから分割継承してサテライト・サービスでやることになった。今後、番組審議会でもスペースシャワーの番組

が入ってきます。

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

■「TOKYO SESSION」について

竹中委員（「TOKYO SESSION」第3夜に出演）から

- ・自分もこの番組、出させていただいた。先日亡くなったムッシュかまやつさんがメインで、BARがあって、ミュージシャンが集まってくる。企画の段階から聞いていた。自分が行った時は、かまやつさんはもう入院されていて、お会いすることなく番組が進行した。ムッシュがその場にいらっしやらないので、なんとも比較しづらいのですが。
- ・まず自分が出る事になって台本見てびっくりしたのは拘束時間の長さ。ロックミュージシャンに午前中に入れというのは酷。例えばスポーツ選手でもアップして、そこからプレイする。簡単に「はい、やってよ」と言われてもプレイヤーはそう簡単にはできない。文句言ったら「そのドキュメンタリータッチを出したいんだ」と言われた。年長者の経験で、「どんどん撮っていこう」と言って。その方が良いもの撮れるよ、となった。結局5時間巻く事ができた。
- ・スタジオは凄い豪華絢爛。大道具から照明から手が込んでいた。その割には無駄な部分が多い。一日であれをやる手間を考えれば、同じ予算をかけるなら仮設の店舗を作って普段は一般営業して普通のお客さん入れて、それで予算埋めあわせたり話題にしたり。それで月に一回実際にプロの人が来て、実際お客さん入って見れるみたいな。そういう形だったらいいのでは。
- ・(番組のキャッチコピーに)「主役は音、音楽と自由を愛するすべての大人たちに捧げる」ってあって大人って誰のことを言っているのか。40代50代の事を言っているのか。子供とは誰なのか。第一回を見たけど、我々の世代でも背伸びしないと分からない。
- ・セッションならもっとめちゃくちゃにやれば?と思った。僕らがセッションと言うと共通項があって多少の解釈の違いがあってもやっちゃえ、となるけど予定調和的に尺があつてというのを見るとガキがなにやってるんだと。我慢してスタンドバイミーまで見たけど皆が話してる内容が伝わってこない。
- ・せっかくかまやつさんがいるのに、本物感・遊び感が出てこないまま終わってしまった。
- ・シャープナインとかの用語も分からない人が多いのに、せめてテロップに「シャープナインはこのコードで、この曲に代表されるコードで」とか。「シャープナインですか?いやフラットテンズで」と言う音楽的な遊びがあれば「同じ和音でも呼び方違うんだ」という面白さ。じゃあ、セッションしてみようって。そうならなかった。

その他の委員から

- ・これはスタジオにお金かかっていると思った。1回1回作って壊すのはもったいない
- ・このセットは素晴らしい。めったに見られない立派なセット。

- ・画面と音楽とおしゃべり、僕は楽しめた。やってる方は大変だったのだろうけど。
- ・これはやっぱりフジテレビでないと絶対作れない。まず一番はキャスティングがすごい。シシドカフカ、いま朝ドラでブレイクし、各局騒然としているのに1年も前から押さえていたのはすごいこと。美術、ほんとにすごいですね。音響も非常に素晴らしい。
- ・始まっちゃうと、「僕らの音楽」とかといっしょでセッションではない。セッションの定義はCのブルースだけで20分やったりする。譜面もない決め事もない。決め事があるとやりようある。何も計算できないと自分の実力を出さないといけない。その面白さがない。4曲5曲の1曲でもセッションやるのがよいと。セッションアルバムは同じ曲やったりしてバージョンが違う。それが面白かったりする。
- ・これは50代60代的人是絶対熱狂するはず。その割にはあまりに説明がない。音楽好きが見ても全員の顔と名前は出てこない。最後に出てくるテロップもよく読めない。50代以上ターゲットなのに読めないテロップ出すのはNG。
- ・23時から24時まで無防備な状態で見たら良い作品なのではないか。野球観戦ともう一つ趣味がある感覚で。そういう観点だと面白いなと感じた。
- ・30年以上前にメジャーリーグのオールスター取材行ったときに流れていた曲があった。きっかけのあるものが出てくるんですね。こういうのが引かかる。思わず、にこってしてしまう。分からないなりに面白い。僕としては説明してほしくない。なまじテロップとか出てしまうとあの時間だと疲れてしまう。わからないならわからないままでよいのかなど。
- ・ロイという歌手がすごいなって感じたし。最後に「スタンドバイミー」が来たのは予想外。絶叫調が僕はよかったなと感じた。
- ・素人から見ても、これお金かかっている。非日常だな、と。モノクロで打ち合わせの様子が出てくるのを見て長い拘束時間だな、とわかった。
- ・かまやつさん以外は正直あまり知らないというのもありまして、アーティストの人たちが集まって勝負をする。芸風とか作風とかで勝負している人たちでしょうが彼らに影響を受けたアーティストはなんだとか会話があったと思いますが、コアな人には興味あるのではないかな。
- ・ムッシュかまやつさんについては、皆さんリスペクトしているのは分かりますけど、うちくを知りたかった。60年代のロックシーンなどを。
- ・ハイライトはセッションだと思った。これだけのメンバーが介して、殆どの人が今日初めて会った。個性の強い人たちで簡単にやろうとってできるのかなど。竹中さんから話を聞いて腑に落ちた。予定調和は私も同じように思った。5曲やったのを打ち合わせとシロクロでやってますけど、なかなかうまくいかないとかあったと思うんですけど、そのようなシーンも見なかった。
- ・最後、契約の話をちょっとします。専属解放。他のアーティストとやるのでグループの問題と専属解放の問題があるのでは。

放送をネットで流すとか、権利処理の問題は気になるところ。

- ・照明にしてもカメラにしても音響にしても素晴らしい。
- ・音楽シーンには疎いものですから、どういう曲なのか何をうたっているのか分からない。やっぱりちょっと（説明を）入れてほしかった。分からなくてもよい説もあるけど、やっぱりわかった方が楽しい。その辺の工夫は伸び代がある。

制作サイドからは

- ・これまでにないテレビ番組のスタイルを模索して企画しました。
- ・4Kに対応してセットにこだわった。見たときに時代感がわからないようにしたかった。（今回の題材回は第一回で）番組の初回なので反省もあります。どこで見ても楽しめるように、映画のワンシーンに見えるようにあえてテロップを入れない姿勢でした。ご指摘通り曲名の部分とかダラッと見るときは、何かしらの文字のフォローがあるのが丁寧かな、と非常に思いました。雰囲気づくりを優先しました。
- ・サウンドチェックの後にフリーセッションやってるので10分20分のセッションがあるんですけど、それを番組に（編集時は）入れたけど、テレビとしてはなかなか難しいところがあって。決まった曲の方がいいのかなと思い、あのような形にしました。
- ・楽曲に関してですが、事前のリハがないのはミュージシャンから非難轟々。
- ・リハはモノクロにしてるんですけど実際ここに出ているのは音楽の超エリート。僕らが想定しているような激しいやり取りはアイコンタクトでやっちゃう。映像的に物語るまでいけない。もっと色々やり取りあるかと思ったので、そこは予定外。コラボに見えてしまう。ただこれまではボーカリストのコラボばかりだったが、ミュージシャンを掛け合わせるのは初のケースなので新しい形だな、と思いました。

■「カスタム野郎Cチーム」に関して

各委員から次のような意見が出された。

- ・好きな人向けの対象の番組なんだな、と思いつつ見ましたが、実際に作っているシーンがない。タイなんかはどう作っているのか、カスタムカーに詳しくないので観たかった。事前に小さいHDカメラとか渡して撮っておいて貰った方がよかった。
- ・車好きな人って、たくさんいると思うし、番組見てお姉ちゃん出てくるし男性向けだな、と。カスタムを作るのに興味がない人でも応援したくなるだろうけど、奥さんは5分で寝ました。それくらい興味がない人には面白くないんだろうなと。
- ・実は父が車好きで、後半に出てくる7年待って埼玉のお爺さんが買ったという話を聞いた時に親父を思い出した。本当に車好きの人が見たら楽しいんだろう。
- ・カスタムカーは子供のころのあこがれ、いつの日か大人になったら買えるのかな。300万から500万。そうは出せない金額。団塊の世代にまだ流行ってる。
- ・10年位前まで改造車やってたので大変嬉しかった。

- ・こういう番組があるよ、と言うのをどうやって拡散しているのか？もっと拡散すれば話題にできる。好きな人だったら絶対見る。いかにその人たちにやってるぞということを伝えているのか。痛車とか改造車を作っている人がネットワークで大騒ぎするような誰かが出てくるとか、ネットワークで大騒ぎするような巻き込みが番組内になかった。
- ・ナレーションも入れて情報番組風な演出も入っているのだから、もうちょっとちゃんとしてほしかった。
- ・日本が改造車の世界で海外トップなのは嬉しい情報なので、アメリカもドイツもあると思いますが、日本みたいなどんでもない事はやってない。
- ・ガラパゴス的に進化させてる日本はすごいので、煽る情報は入れていいのではないかな。そのあともオーディオの下りは、おじさんがいかに人生かけてるかを見せるなら自宅まで行って、奥さん怒ってるとか子供あきれてるとか含めてドキュメントで見せるなら分かるんだけど、車だけ見せるならもっと驚ける人にするべきだな、と思った。
- ・映像頂いた時に、昭和40年代にアメリカでバットマンカーとか日本でウルトラ警備隊とか、そういう車を作って喜んでるのかと思った。車といえばフェアレディZから、アメリカから日本のものになってカスタムカーで日本が第一国となって凄いと思った。ただ、凄いんですけど、僕も昔、車に興味があって中古で探してたりはするけど、今は自分で運転するのは止めてる。こういうのは批評せずに勝手にやってほしいなと。洗車水着ギャルが非常に良かった。これが商売として成り立つんだと。
- ・前半がタイのイベントのキラキラエンターテインメント満載で後半が地味な職人気質な人が出てきて場所も工場の横の空き地みたいで。カスタムカーの世界の奥深さを感じた。前半のバンコクのイベント。自動車が大量生産されて、オーダーメイドできないことがそうさせるんだと。人間の自己顕示欲がそうさせてるんだと思った。
- ・日本車が意外と多かった。従来の日本車のイメージは、乗り心地がいいとか低燃費とか機能的。あまりデザインを考えた事なかった。日本車のデザインのイメージがいまいちだからカスタムカーの世界で盛り上がっているのか、もしくは日本車のデザインに創造性をかぎ取っているのかな、と思った。後者ならクールジャパンの世界のこの一つとしてとらえられる。また、面白かったのはカスタムメイドの細部を紹介して「車は低くしてなんぼ」「つなぎ目を美しく感じさせるんだ」とか。最後、ママレモンで洗うというのは面白かったです。ただ、爆音は個人的には理解できなかった。
- ・作る人のアイデアとか表現とかが、この世界の本質的なもの。クリエイティブな表現。これ権利的には面白くて。従来自動車のデザインは大量生産され多くは機能に注力しているのでクリエイティブなもの作っても著作権の範囲外。著作権は絵とか彫刻とか美的対象なもの。そういう観点だとカスタムカーは一人ひとりの創作的な表現がある一点もの。一人の人が数百万とか数千万かける人もいるので、今後バクったとか紛争も想定されるな、と。
- ・この番組は全く評価しないです。

前半のタイのカスタムカーショーがありました。タイに60年代70年代に行っている人は分かると思いますが、タイは世界的にトラックのデコレーションで有名だった。この伝統があって、車のデコレーションに関しては日本のトラック野郎の前からあった文化。日本はエレクトロニクスが入ってきてからカスタムカーブームが始まりましたけど、それ以前からすさまじい文化があったうえで今の状況につながっている。そのことをまず知っておかないと、日本の後追いして頑張ってますねって言うけど、自己改造してデザインするのはタイの方が大先輩なんです。これが一つ。

それから今回は現地取材に行き通訳が入って話を聞いていますが、現場のディレクターは取材時に通訳の話を聞くと時は通訳の方ではなくあくまで相手を見て話を聞く、これを一言言わないと。通訳と話してるの？と。いかにも素人が作った番組になる。当然リアクションもずれますよね。話もインタビューも中途半端になる。これはディレクターの問題。

後半はあまり盛り上がっていないのは音ばかりだからか、と。でかいスピーカー好きなのは面白いと思うけど。このおっさんがどういう人なの？こう変えましたとかサスペンションの話はありましたけど何やってるのか伝わらない。

(欠席の杉浦委員から)

- ・私の様に車は乗って目的地に着くのならどんな物でも頓着しない人には思いもしない世界を覗いている気がしました。大半の会話は意味も解らない言葉が飛び交って居るような心地でした。タイのカスタムカーの派手さは少々悪趣味だけど東南アジアらしさは伝わってきました。オーディオの神様のカスタムカーの音感覚は私には良く解らない世界でした。カスタムカーは夢と言っていましたが私には不可解でした

制作サイドからは

- ・「作ってるところ見たかった」「人間の部分を見たかった」に関しては、まだ始まったばかりの番組でカタログ的になってしまった。僕らの目的はカスタムカーをやってる人間の面白さを炙り出したのが趣旨。まだちょっと踏み込みが足りてなかった。これからやっていくべきです。
- ・またタイはだいぶ変わってきてます。富裕層が増えています。経済が発達していてハイエースが多い。それをカスタムしている。
- ・どのように拡散していくは課題。同時に番組にも出ていましたが雑誌とコラボして記事にさせていただいてはいる。
- ・キャスティングは拙かったが今までバラエティは一切やってなかったミュージシャン 湘南の風。ややヤンキー気味の若い人がファンに多いので起用した。彼自身もカスタム好きですが乗っているのはレクサス(笑) 野生爆弾は非常に人気のある芸人さん。先日も国際フォーラム1500人を埋める位の力のある芸人を使ってるので人づてに拡散を狙っている。洗車事情の話は狙い通りで実際にあのようなサービスがあって女性が洗ってくれ

る。男の憧れなので入れ込みました。

- ・爆音にこだわるのは、音を出す車だけのフェスティバルもあります。男のサガで無意味なものを大きくしたいのでは。マンモスの牙みたいなの。
- ・まだまだ勉強足りないのでスタッフ一同、歴史背景含めて勉強していく。

竹中

- ・これから番組をどういう風に？

制作サイド；門沢

- ・日々人間をリサーチして面白い人間を探している。ただ、そればかり探しているとキワモノばかりになってしまう。日本は派手じゃないわりに市場が盛り上がっているのは、車検があるから。改造しすぎると車検が通らない。日本の職人気質で合間をぎりぎりに狙ったり、大会エリアに入ってからカスタムしたりする。これで外を走らないようにするなどをやってる。

清水社長から

- ・皆様のご意見は、頷くものばかり。どうして気づかないのか。企画意図はなんだったのかと。出来上がったものと違うんじゃないのかと思うことも多く、今日出たご意見には納得することばかりです。
- ・ただ、上の人間がコントロールするのもよくないと思ってます。こういう形で意見が制作者に伝わるのが番組の向上につながる。あとは視聴者の反応。それに耳を傾けるのが番組の成長に繋がる。

報告事項 「衛星基幹放送の業務の認定申請について」 (要旨)

- ・9月22日から募集が始まった東経110度CS放送(衛星基幹放送)業務認定申請の簡単な説明と現状について説明した。
- ・サテライト・サービスでは、現状5チャンネルから少しずつ帯域を返上し、新しく「スペースシャワーTV」をHD画質で申請する。
- ・さらに、サテライト・サービスとして事業の拡大を狙い、110度でまだ放送していないチャンネルの中から「Mnet」をHD画質とSD画質で申請しビジネスチャンスに繋げていく。

「番組基準の追加訂正の件」

- ・番組基準に「具体的基準については日本民間放送連盟の放送基準に準拠するものとする。」を追加したい旨、机上資料に、番組基準(変更案)と日本民間放送連盟の放送基準を提出し、説明した。
- ・吉岡委員長が各委員に意見を聞いたが、特段の意見もなく 会社案どおりに諮問された。

- ・次回は 平成30年4月9日か16日を予定。
- ・議題はフジテレビ TWO とディスカバリーチャンネルの番組の予定。